# 教　育　研　究　業　績　書

2023年　5月　1日

氏名　西　脇　裕　之

| 研　究　分　野 | 研　究　内　容　の　キ　ー　ワ　ー　ド |
|---|---|
| 1．社会学 | 1）相互行為・社会関係<br>2）コミュニケーション・情報・メディア<br>3）自我・アイデンティティ |

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

| 事　　項 | 年月日 | 概　　要 |
|---|---|---|
| 1　教育方法の実践例 | | |
| 1）教養科目における社会学的な思考法に対する興味を喚起する講義 | 平成22年4月<br>～平成23年7月 | 社会学の入門的講義「人間と社会」において、授業内容を「問－答」の連鎖の形で記入するワークシートを使用し、学習した内容をレポートにまとめるための構成づくりを10回程度行わせた。テーマには近現代のコミュニケーションの諸相、あるいは集団組織における無責任の構造をとりあげ、相互行為に焦点を定めて社会現象を分析する社会学的な視角の有効性を例証した。こうした取り組みにより、１年生に社会学的な思考法に対する興味を喚起することができた。 |
| 2）学生－教員間のコミュニケーション・カードを利用した講義 | 平成22年4月<br>～平成24年１月 | 100名程度の講義において学生が受け身にならないように、学生－教員間のコミュニケーション・カードを作成して使用した。14回分の学生コメント欄と教員の返信欄からなる大福帳形式のカードをＡ４厚紙で作成し、毎回配付・回収する。1学期分の出席状況と授業内容を毎回確認させることで、学生からの質問を誘発し学習内容の理解と定着を促すことができた。 |
| 3）実習授業における小さなメディアの制作による調査成果の還元の試み | 平成22年9月<br>～平成23年1月 | 健康ビジネス実習Ⅱにおいて、北海道で唯一上水道がなく、各戸で地下水を組み上げて生活している自治体東川町のフィールドワークを実施。町役場の担当者によるレクチャーの後、源水地点を視察し、地下水を利用した豆腐・麹・洋菓子店を訪問してインタビュー調査を実施した。その成果を学生各自の調査体験に焦点を合わせた文章と写真を組合わせたポストカードにまとめさせ、調査地へ還元することを試みた。 |
| 4）近隣商店街との連携にもとづく地域調査とコミュニケーションペーパーの制作 | 平成26年4月<br>～2020年1月 | フィールドワークⅠ・Ⅱの授業の一環として、札幌市東区環状通東商工振興会が発行するフリーペーパー『わっか』の企画・編集を受講生に担当させた。商店街の会員企業への取材、東区の地域資源を特集した記事の制作、史跡・歴史的建造物の紹介記事の執筆などを通じて、具体的な地域の歴史や特性を調査・学習するとともに、その成果をフリーペーパーの企画・編集という形で調査地に還元することを試みた。 |
| 5）札幌苗穂地区の北海道遺産を対象としたフィールドワークにおける地域資源の見直しを促進する取り組み | 平成27年4月<br>～平成29年3月 | フィールドワークⅠ・Ⅱの授業において、札幌苗穂地区の工場・記念館群として北海道遺産に認定されている4つの博物館や工場をフィールドとして見学及び管理運営者へのインタビュー調査を実施してきた。科目のねらいは社会調査の企画・準備・実施・分析の一連のプロセスを体験的に学習することにあるが、メディア論的な視点からの分析を導入することで、地元の地域資源を空間メディア、地域メディア、コミュニケーションメディアとして見直すことを促進する工夫をした。 |

| 事　　項 | 年月日 | 概　　要 |
| --- | --- | --- |
| ６）「現代社会論」における習得した知識を自省へと接続転換させる取り組み | 平成30年4月～2022年7月 | 現代社会における集団的無責任という現象をテーマとして扱う科目であり、模倣という観点から集団的無責任を引き起こすメカニズムや状況、自律性を保つ条件について理解させるようにした。特に近現代史における実際の事件や事故の事例紹介を通して、無責任に陥らないための日頃からの備えや組織としての工夫について、自分自身の問題として考察するように促した。 |
| ７）コロナ禍での学習促進のためのオンデマンド型授業の教材作成 | 2020年5月～2022年3月 | コロナ禍で講義がオンデマンド型授業中心となったために、学生の予習・復習を促すために、予習教材、オンデマンド映像、振り返り課題の３点を各回準備して授業を行った。課題はGoogle classroomを通じてフィードバックし、次の授業映像の中で振り返りを行い、学習内容の定着を図った。 |
| ８）卒業研究における論文構造把握のためのワークシートの作成及び学習技法の定着 | 2022年4月～現在 | 卒業研究の授業の中で、先行研究を読む際に論文を問題提起と主張と論証の形に再構成するためのワークシートを作成し、論文の構造を把握する学習の技法の定着を図っている。これにより学生は先行研究論文の構造を把握しやすくなった。また、学生自らの卒業論文制作にあたっても、構造の見通しをつけながら執筆していけるという効果が期待できる。 |
| ９）フィールドワーク・地域課題研究におけるコミュニティＦＭ番組の制作 | 2022年4月～現在 | フィールドワーク（2023年度より地域課題研究）の授業の一環として、西区三角山放送局において月１回60分間のラジオ生放送を実施し、地域メディアの実際について体験を通して学ぶ機会としている。学生にとってはコミュケーションの送り手及び受け手双方の役割を取得する訓練となっている。また、放送後のふり返りを通じて、自分たちの言葉を公共の電波に乗せることの責任を自覚し、コミュニケーションの公共性についての考察を深めるように促している。 |
| ２　作成した教科書，教材 | | 特記事項なし |
| ３　教育上の能力に関する大学等の評価 | | |
| ４　実務の経験を有する者についての特記事項<br>１）まちづくりを担う人材養成講座「安全、安心なまちづくりに向けて」（全５回）講師（美唄市美唄サテライト・キャンパス） | 平成24年6月30日～7月28日 | ①自分たちのまちは自分たちで守る、②犯罪の機会を与えない、③犯罪者を作り出さない、④災害に負けない、⑤ソーシャル・キャピタルを育む、という全５回の連続講義。札幌市やその他の地域での事例を紹介しながら、安全、安心なまちづくりを進めて行く上で必要なことは、無理なく続けられる活動を通して多くの地域住民が参加することで、地域に対する愛着と当事者意識を高めることである、というメッセージを伝えた。 |
| ２）えるのす連続講座～女性大学～「都市環境をコミュニケーションから考える」講師（北海道女性協会　かでる２・７） | 平成25年10月15日 | 現代の都市環境では、利用者へのマナーや注意を呼びかける放送や掲示が氾濫状態とも言える状況にある。これらの管理表示・管理放送の特性について紹介し、なぜそれらがあふれているのか、なぜ大多数の人びとはその氾濫状態が気にならないのか、それらを減らすためには何が必要なのかについて、コミュニケーションの社会学の立場から論じた。 |
| ３）西のコンサ通り商店会第１回研修会「商店会の活動実践について　大学の地域貢献活動について」講師（西のコンサ通り商店会　西町会館） | 平成27年2月19日 | 札幌市西区西町・宮の沢地区に設立された商店会の研修会において、パネリストとして出席し、大学の地域貢献活動について話題提供を行った。環状通東商工振興会のフリーペーパー『わっか』の制作における連携協力を中心に、学生にとっての教育的効果や学生の本分をわきまえた適切な関与の仕方について論じた。 |
| ５　その他 | | 特記事項なし |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---|---|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1　資格，免許 | | 特記事項なし |
| 2　特許等 | | 特記事項なし |
| 3　実務の経験を有する者についての特記事項<br>1）戦略的地域カルテ・マップ検討委員会委員（札幌市市民まちづくり局市民自治推進室） | 平成25年12月<br>～平成26年3月 | 地域カルテ・マップは地域のまちづくり活動を活発化するための参考資料として作成されたものである。次期カルテ・マップでは将来を見据えた議論・活動を深めていくために、将来推計の数値を追加し、徒歩圏分析を実施する。本委員会では将来推計数値の分析手法、地域課題把握に必要な項目の整理やグラフ等の表示方法などについて、検討を行った。 |
| 4　その他 | | 特記事項なし |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・<br>共著の別 | 発行又は<br>発表の年月 | 発行所，発表雑誌等<br>又は発表学会等の名称 | 概要 |
| （著書）<br>1.「地域のまちづくり活動団体の新たな活動戦略策定事業」調査研究業務実施報告書 | 共著 | 平成23年3月 | 札幌市市民まちづくり局市民自治推進室<br>200頁 | （共同研究につき本人担当部分抽出不可能）<br>札幌市内87箇所のまちづくりセンターの地区ごとに、現状と課題を分析した研究成果についての論考。人口動態などの地域統計と街づくりの拠点の整備・利用状況を分析し、87地域の特性を類型化した。それらの客観的な指標にもとづく分析とまちづくりの活動状況から、地域課題を析出し、解決の方向性について提言を行った。<br>（共著者）飯田俊郎、赤城由紀、西脇裕之 |
| 2.まちづくりセンター区域別地域カルテ・マップ | 共著 | 平成23年11月 | 札幌市市民まちづくり局市民自治推進室<br>124頁 | （共同研究につき本人担当部分抽出不可能）<br>札幌市内87箇所のまちづくりセンターの区域別に各区域の現状と課題を分析した成果を、地域課題の解決に向けた住民同士の話し合いや活動の重点化の参考に資するための地域カルテとしてまとめたもの。客観的な指標にもとづく分析とまちづくりの活動状況から、地域課題を析出し、解決の方向性について提言を行った。<br>（共著者）飯田俊郎、赤城由紀、西脇裕之 |
| （学術論文）<br>1.まち歩き体験の構造とフィールドワークにおける小さなメディアの可能性 | 単著 | 平成23年3月 | 『札幌国際大学紀要』（札幌国際大学）<br>第42号<br>pp.113～121 | まち歩きフィールドワークにおいて、小さなメディアがその体験の記録だけでなく、その成果の表現や調査地への成果還元において重要な役割をはたすことを論じた。まち歩き体験は、二重化された体験、体験の反芻、他人の体験の重ね描きなど、複合的な体験の構造をもつことを指摘し、小さなメディアがフィールドワークの記録と成果の表現・発信において開く可能性について、著者が実施してきたフィールドワークの事例を通じて検討した。 |

| 著書, 学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概　　要 |
|---|---|---|---|---|
| （学術論文）<br>２. 地域の記憶の制作と到来 ―「清田まるごと博物かん」の活動を例に ― | 単著 | 平成23年3月 | 『北海道地域文化研究』（北海道地域文化学会）第3号<br>pp. 25～40 | まちづくりにおいて地域の記憶を呼び覚まし継承していく活動はきわめて重要である。本稿ではまず地域の記憶は記念・顕彰によって制作されるという問題点を指摘した。その上で、札幌市清田区のふるさと遺産の選定事業に触れ、ふるさと遺産の有効活用に向けて清田の水や原風景をテーマとしたウォークラリー、ワークショップなどのイベントを開催してきた「清田まるごと博物かん」の活動を事例として取り上げ、地域の記憶を呼び覚ます上でまち歩き活動がもつ意義について考察した。 |
| ３. コミュニケーション接続の社会学 ―論文構造設計シートを利用した社会学教育の試み ― | 単著 | 平成23年3月 | 『札幌国際大学北海道地域･観光研究センター年報』（札幌国際大学）第4号<br>pp. 13～21 | 社会学の入門的講義において筆者が実施した社会学教育の試みについて紹介し考察を加えた論考。「問－答」の連鎖からなる、論文構造設計シートを授業内で作成させることで、社会とはコミュニケーションの場面の集積であり、問いかけに対する応答こそが社会を成立させていくという相互行為の原理の理解促進を図った試みについて論述し、学習内容と相即した学習方法が一定の効果を上げている点について考察を加えた。 |
| ４. 公共空間における管理放送と管理表示に関する一考察 －コミュニケーションからアーキテクチャへ（１） － | 単著 | 平成25年3月 | 『札幌大谷大学社会学部論集』(札幌大谷大学)第1号<br>pp. 207～229 | 公共空間における人びとの行動を啓発・管理する目的で設置・放送されている管理表示・管理放送を、アーキテクチャとして把握しようとした論考。その増加の原因について、利用者側からのパターナリズムの要求によるという説に対して、利用者が求めているのは相互行為儀礼であるという解釈を提示した。また、その表示・放送が、認知を経由せずに身体レベルで自然に誘導・管理するアーキテクチャとしての側面をもつことを指摘した。 |
| ５. 管理表示・管理放送に関する認知と評価の不協和について －コミュニケーションからアーキテクチャへ（２） － | 単著 | 平成27年3月 | 『札幌大谷大学社会学部論集』(札幌大谷大学)第３号<br>pp. 45～70 | 管理表示・管理放送は従来コミュニケーションの観点から論じられてきたが、本稿ではそれらを身体と環境との相互作用という生態学的な枠組みに位置づけることを試みた。また、地下鉄駅構内での管理表示・管理放送についての利用者の意識調査の分析を行い、管理表示・管理放送一般の現状と効果については高く評価していながら、具体的な個々の管理表示・管理放送の存在やその意味内容についての認知は低いという不協和について論述し考察を加えた。 |

| 著書, 学術論文等の名称 | 単著・<br>共著の別 | 発行又は<br>発表の年月 | 発行所，発表雑誌等<br>又は発表学会等の名称 | 概　　要 |
|---|---|---|---|---|
| （学術論文）<br>６．コミュニケーション接続に関する社会学教育 ―論文構造設計シートを利用した社会学教育の試み ― | 単著 | 平成28年3月 | 『札幌大谷大学社会学部論集』(札幌大谷大学)<br>第４号<br>pp. 33～51 | 教養科目としての社会学講義において筆者が実施した、論文構造設計シートという教材を利用した教育実践の意義について検討し、この学習方式が学習内容を行為遂行的に理解・確認する方法であることを示した。また、当日ブリーフレポートや質問書などの他の授業改革の方式と比較して、そのメリット・デメリットについて考察を加え、教育工学におけるＡＲＣＳ動機づけモデルに照らして評価した。 |
| （その他）<br>（口頭発表）<br>１．管理表示・管理放送の増加とその効果に関する研究 ーコミュニケーションからアーキテクチャへー | 単著 | 平成25年10月12日 | 第86回日本社会学会大会（慶應義塾大学） | 人びとの行動の誘導・管理を目的とした管理表示や管理放送については、その量の膨大さと人びとの認知の希薄さが好対照をなしている。本報告ではそれらが増加する原因として従来から提唱されてきたパターナリズム要求説を検討し、その問題点を指摘した。また、それらの効果はメッセージの意味内容の理解を経由せず、身体レベルでの環境適応を引き起こしており、アーキテクチャとして把握することができることを指摘した。 |
| ２．社会調査実務士と社会調査教育 | 共著 | 平成29年6月10日 | 第65回北海道社会学会大会（北海道情報大学） | シンポジウム「社会調査教育と社会学の現在」における共同報告。本学地域社会学科開設以来の社会調査教育を振り返り、教育課程の改定に際して、社会人基礎力を土台として地域社会調査の実務力を身につける資格である、社会調査実務士資格を導入した経緯を説明した。また、調査分析を通して、人びとの思考の多様性に気づかせ、心理学主義的な性向に偏らない思考を促す上で、エラボレーションの分析が有効であることを示した。<br>（共同発表者）西浦功 |
| （その他）<br>１．書評　内田司著『現代社会と感情コミュニケーションー日常生活におけるミクロな人間関係分析の社会学ー』 | 単著 | 平成25年6月 | 『現代社会学研究』（北海道社会学会）<br>第25巻<br>pp. 109～114 | 現代社会における人間関係と精神生活の病理現象を、感情コミュニケーションという見地から分析した著作の書評。著作の概要を紹介し、その意義と問題点について論述した。著者が示す感情の理性と方法論上の脱個人主義が、人間関係の分析視角としてまた現代社会論としてもつ意義を指摘するとともに、共感コミュニケーションを本来的なものと非本来的なものに二分する思考が、理性対感情という構図を再生産しかねない危惧を指摘した。 |

| 著書, 学術論文等の名称 | 単著・<br>共著の別 | 発行又は<br>発表の年月 | 発行所，発表雑誌等<br>又は発表学会等の名称 | 概　　要 |
|---|---|---|---|---|
| （その他）<br>２．地域の記憶を呼び覚ます－史跡探訪への招待－ | 単著 | 平成26年11月 | 『わっか』特別号（札幌市東区環状通東商工振興会）<br>p. 6 | Ｍ．アルヴァックスの集合的記憶論における記憶の集合性・現在性・物質性・空間性という論点を踏まえて、東区にある林檎の碑を例に挙げて、地域の史跡、歴史的建造物、記念館、記念碑などを訪れることは、過去の出来事を直接体験していない人びとも一緒に地域の記憶をつくり出す共同作業に参加することになる、ということを論じた。 |